

榊原秀資著「強い円は日本の国益」東洋経済新報社 2008年9月18日刊を読む

円高による産業構造転換

1. 売るシステムから買うシステムへの転換、あるいは、円高政策の採用ということで最も懸念されるのが、国内産業の空洞化と雇用の喪失でしょう。事実、1985年9月のプラザ合意後、円が急騰した1986年は、実質GDP成長率が前年の5.1%から3.0%に大きく落ちており、また、失業率も2.6%から2.8%に上昇しています。ただ、財政・金融政策で対応したこともあり、不況は深刻化せず、逆に1980年代後半には資産バブルが発生するにいたります。しかし、バブル崩壊後も円高は続き、1990年代に入ると日本は大きな調整期、構造改革の時代に入っていきます。宮澤が言うように、プラザ合意が最終的に日本経済の高度成長を終わらせ、新たな局面が始まったのです。
2. たしかに、1990年代の停滞は厳しく長い調整期間を要したのですが、円高を契機に日本企業は東アジアに急激に進出し、現在にいたる東アジアの生産のネットワーク、あるいは、サプライチェーン・ネットワークをつくっていきます。東アジア経済の統合はここ10年程急速に市場主導で進んでいますが、そのきっかけはプラザ合意による円高だったということができるといえるでしょう。また、1990年代のバランスシートの調整は長い期間がかかり、いわゆるバランスシート不況を生んだのですが、財務構造の大転換は2000年代の長い景気拡大の基盤をつくっていったのです。
3. たしかに1995年に1ドル80円を切るといった急速な円高の進展は行きすぎであり、そのため様々な問題を日本経済に生じさせました。しかし、いくつかのオーバーシュートを経ながら円が1ドル200円台から100円台になっていったことが、日本経済に大きな打撃を与えたということではないでしょう。巨大な投機資金が動き回る国際金融市場は常にオーバーシュートし極端に振れるのですが、トレンドとしての為替レートの変更に企業が対応し、産業構造を変えていくことは、決してマイナスではないです。
4. 短期的にはともかく、大きな流れとして、ニクソン・ショック以来、特に、プラザ合意以来の円高が日本経済を空洞化させ、雇用を奪ったかと言えば、答えは明らかにノーです。企業活動は、アジア等をベースに大きく国際化していきましたが、これは日本企業や日本経済にとって、むしろ、プラスだったと言えるのではないのでしょうか。
5. 国際的な展開が可能だった大企業はともかく、中小企業は大きな打撃を被ったと言えることは出来るでしょう。しかし、グローバル化の流れは中小企業としても乗らざるをえないものです。大企業とともに海外に進出した中小企業も少なくなく、東アジアの生産ネットワークのなかで、日本企業全体が国際化したという側面も少なくありません。

6．特に、IT 技術が各段に進歩した今、中小企業業務の国際的展開も以前より容易になっています。JETRO(日本貿易振興機構)等も積極的に支援していますし、これから、ますます中小企業の国際化が進んでいかななくてはならないのでしょうか。日本の人口は減少していますし、それともなって国内の労働力供給も減っていきます。移民を大量に受け入れて国内労働力を維持し拡大するか、日本企業が海外に進出して東アジアや南アジアの豊富な労働力を利用していくかですが、前者の移民の大量受け入れは文化的・社会的摩擦を生む恐れもあり、かなり後者に重心を置いていかざるをえないでしょう。

7．いずれにせよ、過去の経験に照らしてみても、深刻な国内産業の空洞化・雇用の喪失の恐れはないとすることが出来るのでしょうか。成熟段階に入った日本経済は、もはや労働集約的産業で成長を図る局面はとうの昔に終わらせています。今の段階は、資本集約的産業からさらに技術集約的産業に移行する時期です。知的所有権の問題もあり、最新鋭技術を持った工場は国内に造るケースが増えています。また、研究所と現場とのインターアクションという点からも、ある程度の国内設備投資は必要です。景気循環の影響はあるにせよ、現在の日本で設備投資が大きく減衰している傾向は見られません。また、労働力が過剰になっているというわけでもありません。むしろ、中国やインド等の巨大な海外市場を念頭に置きながら、海外直接投資を促進し、それとの連携を強めて国内の研究・開発や先端技術による設備投資を強めるといった戦略が必要ですし、また、その認識も高まっているようです。

P227 ~ 230

[コメント]

ドルとユーロ安のため 1 ドル 90 円台前半、80 円台後半は誰が見ても円高。この状況がどれだけ続くかわからないが、本気になって円高を活用した経済成長、企業経営を考える時期がとうにきている気がしてならない。1 ドル 80 円台、70 円台があたりまえになった後では、手遅れ。財政赤字のため円安・ハイパーインフレになった時のシナリオも持ちながら、60 円台、70 円台の超円高に備えたシナリオをも持ってこそ生き残りができると考える。本書からも大いに学びたい。

- 2010 年 3 月 5 日 林明夫記 -